

恩恵

知っておきたいキリスト教のことば (33)

「恩恵」という言葉は、ギリシア語「カリス」の訳語の一つです。「カリス」は「恵み」とも訳され、新共同訳聖書ではそちらを採用しています。

わたしたちが一般的に使っている「恵み」を広辞苑で調べてみると、「めぐむこと。なさをかけること。あわれみ。いつくしみ」と書かれています。これは人間同士でも用いられる語です。しかし、聖書での「恵み(恩恵)」は、神さまから人間に対して一方的に与えられるものを指します。聖書の恵みは、人間の努力や生き方に関係なく、シャワーのように与えられるものなのです。



わたしたち人間は神さまから離れ、神さまに背いて生きています。悪いことを何一つ考えずに一日を過ごすことができれば、どんなに幸せだろうかと思うことがあります。しかし毎日寝る前に思い返すと、今日も自分はどうして、と思う日々が続くのです。

そのような罪深い人間でありながら、神さまは独り子イエス様をわたしたちに与えられました。そしてわたしたち一人ひとりを滅びから救いへ、死から生へと贖うために、イエス様を十字架へと向かわせたのです。

わたしたち一人ひとりが神さまの前に正しい人間だからではありません。立派な行いをした報いを頂いたわけでもありません。わたしたちが罪の中にもかかわらず、神さまから与えられた一方的で一切の見返りを求めない恵みこそが、恩恵なのです。

恩恵を受けたわたしたちは、どのように生きるべきでしょうか。日々の恵みに気づいたときに、神さまがわたしたちに近づいてくださったことを感じ、感謝の内に歩むことが大切なのではないでしょうか。

次回は「回心」です。お楽しみに。